

# 人生ハンド仏句

第60号

H. 19. 3. 1  
(毎月1日発行)

## 逆縁の教え

住職 谷川寛俊

先月の二十一日、富山市で一歳十カ月という誠に短い人生を終えた男の子の葬儀がありました。

どなたでもそうでしょうが、我が子に先立たれること程悲しい事はありません。ましてや幼い子となればなおさらの事です。

昨日まで元気に遊んでいた我が子が、翌日突然なくなつたのですから若い両親にしてみれば寝耳に水の出来事です。まったく信じられない事です。救急車で病院へ運ばれたのですが死因は突然死という事でした。

お通夜には、友人や近所の方々が同情心もあつて、焼香参列者で会場は一杯でした。

両親もすでに涙が枯れ果て、何と声を掛けて良いやら言葉も見つかりません。正直言ってこういう時の法話は実に難しいものです。祭壇に安置された小さな棺が痛々しく本当に

身を切られる思いです。

わずか一歳十カ月で此の世を去つたちゃんの幼くて小さな命は、ご両親様を始め本日ご参詣の皆様は何を覚えてくれたでしょうか？振り返つて考えてみると多くの大切な事を教えてくれました。

それは人を愛しむことの素晴らしさと大切さ、無垢で純な美しさ、笑顔の尊さ、そして生命の大切さなど私達に改めて教えてくれたのだと思います。

昭和初期に茨城県生まれの童謡作家で有名な野口雨情という人がいました。雨情には最愛なる一人の娘さんがいました。ところが、本日の ちゃんのようにならずに二歳にして病死されたのです。それからというものは、朝から酒を飲み自らを失う程だらしなくなつてしまいました。

ある時、寝ている雨情の枕元に可愛い娘さんが現れ「お父さんそんな事をしていると身体を壊して駄目になつてしまつよ、私心配で休めないよ。」と言つたというのです。その時雨情は、

ハツと吾に返りそれからというものは、数々の有名な詩を作りました。中でも「しゃぼん玉」という詩は、我が子を亡くした雨情自身の切々たる親

編集・発行  
玉蓮山 真成 寺  
編集部  
TEL・FAX (0765)22-2268  
メールアドレス  
kokorochanthk@ybb.ne.jp  
ホームページアドレス  
<http://www.geocities.jp/sinjiyoujitoiyama108/>

の心情を詠(うた)つたものと言われています。

「しゃぼん玉飛んだ、屋根まで飛んだ、屋根まで飛んでこわれて消えた……」生まれすぎてすぐにこわれて消えてしまつたという悲しみの中から生まれた詩人雨情の声であるとともに子に先立たれた親の魂の叫びであつたのです。

日蓮大聖人様も(上野殿尼御返事)「昔より今に至るまで友と別れ、親子の別れ、夫婦の別れ、いずれも忍びがたき嘆き也。されども親子の別れほどたとえようもなく忍びがたき別れはなし。親子の別れにも親はゆきて子の止(とど)まるは同じ無常なれども人の世の習い也。親は止まりて幼き(若き)子の先立つ事ほどなげなげなき悲しみはなし。今一度亡き我が子の声を聞けなば火にも入り、水にも入りても惜しからずとは残りし者の思いなり……」とおっしゃつておられます。

火葬場で棺が入られる場面は、何回立ち会つてもつらいものを感じますが、いよいよ釜に小さな棺が入る瞬間、日蓮大聖人のお言葉「我が子に、変つてあげられるものならば火にも入りても……」が脳裏に浮かびもらい泣

きさせられました。

翌日、壇払いのご祈祷にお邪魔させていただいた折、若いご両親から「御前様のご法話のように、私達心から身にしみました。そしてこの子から多くのことを学びました。このことは私達夫婦の固い「絆」としてこの子に感謝したいと思えます。そして命の大切さと今日生かされているといふ事を肝に銘じ一生懸命ご供養して参ります。ほんとうに我が子によつて教えられました」と語つていただきました。

これを親子の同時成仏と言い、子供の死によつて教えられた「逆縁」の法ともいわれる大切な教えであります。 ちゃんも必ずや霊山浄土でお釈迦様、そして日蓮大聖人様のお膝元で安心して楽しく遊んでいるに違いありません。

